

# 三郷市立学校教育施設個別計画

三郷市教育委員会 教育総務課 教育環境整備室

## 背景

本市の学校教育施設<sup>※1</sup>は、第2次ベビーブーム世代の増加に伴い、昭和40年代から昭和50年代にかけて多く整備されてきましたが、施設の経年劣化が進み、一斉に更新の時期を迎えつつあります。今後、更新や劣化対策を必要とする学校教育施設を、どのように維持管理していくのかが大きな課題となっています。

※1：学校教育施設……小学校19校（児童クラブ含む）、中学校8校、学校給食センター2施設

## 目的

本計画は、「三郷市公共施設等総合管理計画」に基づく学校教育施設の個別計画として位置づけるものであり、安全・安心な施設環境の確保を図るとともに、長期的な維持管理のトータルコストの縮減及び予算の平準化を図ることを目的とします。

## 計画期間

計画期間は、令和2年度から、「三郷市公共施設等総合管理計画」の計画期間である令和7年度までの6年間とし、その後、三郷市公共施設等総合管理計画の見直し、関連計画や社会情勢の変化に応じて、適宜、見直しを行います。

## 課題

### (1) 経年劣化に伴う施設整備費用について

⇒学校教育施設の経年劣化が進んでおり、今後10年間で築40年以上を迎える施設が増加することから、その対応と財政調整が課題となります。

### (2) 躯体の健全性について

⇒屋上や外壁の劣化により表面被覆が弱くなったところから中性化が進行することが予想され、躯体の健全性に大きく影響することから、その対応が課題となります。

### (3) 躯体以外の劣化について

⇒築年数の経過している施設ほど経年変化に伴う劣化が広範囲に出ていることから、その対応が課題となります。

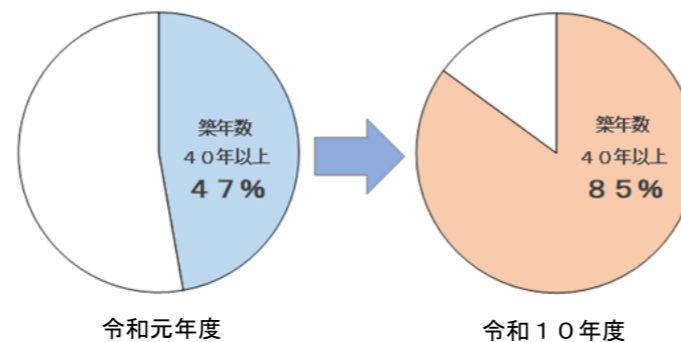
### (4) 質的改善について

⇒段差解消や多目的トイレ、手すりの設置など、バリアフリー化についての整備が不十分な施設への対応、適切な学習環境を維持するための照明環境の確保と省エネルギー対策、災害時の避難所としての防災機能の強化が課題となります。

### (5) 施設全体の総量について

⇒今後、児童生徒数の推移を見据えたうえで、学校の適正規模・適正配置への対応が課題となります。

【学校教育施設（築年数別延床面積の割合）】



## 学校教育施設の目指すべき姿

- (1) 安全で安心して利用できる学校施設
- (2) 快適な環境を備えた学校施設
- (3) 災害に対応できる学校施設
- (4) 安定して供給できる学校給食センター

## 目標使用期間

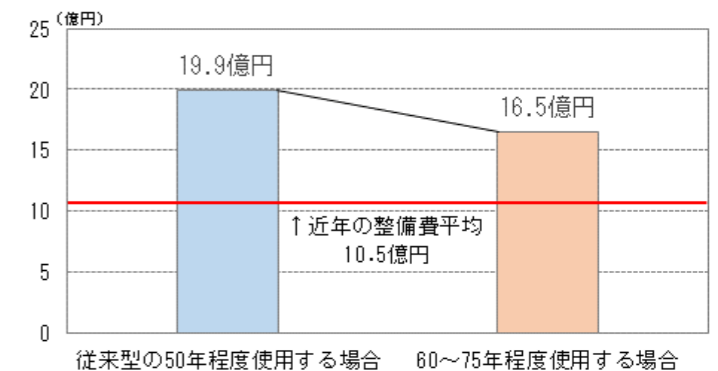
建築後50年程度で改築するこれまでの一般的な整備手法を見直し、学校教育施設の建設された時期に応じて、目標使用期間を設定し、計画的に改修等を行うことで施設を維持していきます。

区分	目標使用期間
①昭和56（1981）年以前	60～65年程度
②昭和57（1982）年以降	60～70年程度
③平成10（1998）年以降	70～75年程度

## 平準化による効果

従来型の50年程度使用することを想定した場合、今後40年間の改築及び改修等のコストは年平均約20億円程度と試算されます。そこで、建設年や劣化状況を考慮し、事業時期を調整して事業を平準化することにより、年平均約16億円程度に抑えることが可能となりますが、市の財政状況を考慮し、更なる経費縮減に努めてまいります。

【今後40年間の建替え及び改修等のコスト（年平均）】



## 実施計画

グループ分け	グループ分けの考え方	目標使用期間	当面の改修手法
グループ1	築50年以上の学校等	60～65年程度	部分的改修
グループ2	築35年以上50年未満の学校等（過去10年間で大規模改修を実施していない施設）	60～70年程度	大規模改修又は中規模改修
グループ3	築35年以上50年未満の学校等（過去10年間で大規模改修を実施している施設）	60～70年程度	部分的改修
グループ4	築35年未満の学校等	60～75年程度	長寿命化改良、大規模改修、中規模改修又は部分的改修